

令和5年度第1回川崎市公共施設マネジメント推進委員会（議事録）

- 1 開催日時 令和5年8月29日（火）午後2時30分～午後4時20分
- 2 開催場所 第3庁舎12階健康福祉局会議室 ※対面及びWEB会議のハイブリット形式にて開催
- 3 出席者
 - 出席委員
 - 李 委員、倉斗 委員、朴 委員、村尾 委員（対面出席）
 - 伊藤 委員、稲生 委員、山口 委員（WEB出席）
 - 市側出席者
 - 樋口 総務企画局公共施設総合調整室長
 - 島田 総務企画局公共施設総合調整室担当課長
 - 佐藤 総務企画局公共施設総合調整室担当課長
 - 中村 総務企画局都市政策部企画調整課担当課長（※熊谷担当係長が代理出席）
 - 藤原 総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長
 - 秋廣 財政局財政部財政課担当課長
 - 水嶋 財政局資産管理部資産運用課長
 - 事務局
 - 総務企画局公共施設総合調整室 各職員
- 4 議題（公開）
 - (1) 会長選出
 - (2) 地域ごとの資産保有の最適化について
 - ① モデル地域におけるエリアごとの公共施設の適正配置検討の進め方について
 - ② ワークショップ・アンケートによる市民意見聴取について
 - (3) 公共施設白書の分析について
- 5 傍聴人数 0人
- 6 会議内容（※『太字』は次第における各項目）

『開会』

- 事務局より、令和5年度第1回川崎市公共施設マネジメント推進委員会の開催を宣言—
- 開会挨拶（樋口 総務企画局公共施設総合調整室長）
- 事務局より、事務連絡—

『1 出席者紹介』

- 各委員の氏名・役職等につき、事務局より紹介—
- 行政側出席者の氏名につき、事務局より紹介—

2 議題

『1（1）会長選出』

【事務局】

議題の一つ目としまして、会長選出でございます。

本委員会の会長の選出につきましては、川崎市附属機関設置条例第6条に基づき、委員の皆様の互選により会長を選出していただきたいと考えております。委員の皆様、御意見はいかがでしょうか。

昨年度までの委員会では、稲生委員に会長をお願いしておりましたが、稲生委員のほうから、もし御意見等があればお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

【稲生委員】

この委員会が出来上がってから大分時間がたっておりますので、そろそろ交代をして、新しい風を入れたほうがいいのではないかなと、こういうふうに考えております。

そういう意味では、資産マネジメントに関して大変専門知識が豊富で、また様々な論考も発表されておられます李委員さんが適切ではないかな、こういうふうに個人的には考えております。

以上でございます。

【事務局】

ただいま稲生委員のほうから、李委員の会長推薦についての御意見がございました。そのほかの委員の皆様から、御意見はございますでしょうか。

～～～委員からの意見なし～～～

【事務局】

ほかにないようであれば、李委員に会長就任をお願いさせていただきたいと存じますが、委員の皆様、いかがでしょうか。

～～～委員からの異議なし～～～

【事務局】

それでは、ここからの議事進行は、李会長をお願いしたいと存じます。会長、どうぞよろしくお願いいたします。

【李会長】

先ほど会長就任におきまして、稲生前会長から推薦がありましたが、この委員会のことを非常に重く感じておきまして、新しい会長として、役割を一生懸命に果たしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従い、進めていきたいと思っております。

議題（２）として、まず、地域ごとの資産保有の最適化のうち、①モデル地域におけるエリアごとの公共施設の適正配置検討の進め方についてとなっております。

最初に事務局のほうから、資料１と２について説明をしてもらい、後半、それに対して御意見の時間を設けて、そういった流れで進めていきたいと思います。

それでは、事務局のほうから説明をお願いします。

『１（２）地域ごとの資産保有の最適化について

① モデル地域におけるエリアごとの公共施設の適正配置検討の進め方について』

（資料１、２について事務局から説明）

【李会長】

事務局のほうから、資料１、２についての説明がありましたが、委員の皆さんから御意見はございますか。

意見のある方は、挙手をお願いします。

まず、私のほうから確認ですが、今説明してくださった内容は、非常に内容が複雑ですが、これについて、新しく就任してくださった委員の方々は、今の説明内容だけでは全体的な理解が足りないかと思いますが、その部分について、どのように対応して下さるのかお話しいただければと思います。

【事務局】

今年度新たに就任された委員の皆様には、内容を理解いただくのは、なかなか難しいというところもございますので、就任後に昨年度からの第３期実施方針の取組を御説明させていただきました。併せて、今回の資料につきましても事前説明という形で、先日御説明させていただいたところがございます。市民の方に対しても、内容を理解いただくのはなかなか難しい取組であると認識しておりますので、同様に、今後も丁寧に御説明させていただければと思っております。

【李会長】

分かりました。ありがとうございます。

【倉斗委員】

今年度から委員に就任しまして、事前に事務局から説明もいただいていたので、そのときにも少し申し上げましたが、今回の資料２で御説明いただいているステップの中で、軸となる軸施設という呼び方というのが、最初、少し分からなかった部分ではありまして、グルーピングをして、その中の老朽化度の高いものを軸施設というふうに呼ぶということですが、軸というふうに言うと、中心にあるものというイメージを持つので、何かその施設にいろいろな周りの施設を複合するという、集約するという軸なのか、老朽化が進んでいるので検討するときのきっかけとなるという位置づけのものなのかというのが、少し分かりにくいかなというのがあって、質問させていただきました。

【事務局】

第3期実施方針では、委員のおっしゃられた形ですと、後者のほうになります。最適化検討の起点となり得るというところで、老朽化を主に重点を置いた上で、軸となる施設を設定いたします。軸が必ずしも複合化元になるというわけではなくて、あくまで起点となる、そこから検討を開始するというような意味合いで、設定させていただいております。

【李会長】

ありがとうございます。

ほかの委員の方は、いかがでしょうか。

【稲生委員】

軸となる施設をどういうふうに決めていくのか。先ほど倉斗委員から、若干の疑問点が出されたということで、それが老朽化した施設ということで、まずは決めていくという、こういうスタートラインがあるわけです。

次の段階、つまりステップ3のところになりますと、実は、どの施設を軸にしていくのかということで、箱の部分で決めたということになると、いきなり利用の圏域に入ってしまう前に、私としては、本当はあるべきというか、現時点における、施設が持っているソフトの部分、つまり機能的なものを分析した上で圏域というものに入っていくか、何となく順序が逆になってくるのではないかなという懸念を持っております。

機能というのは、分かりやすい例で言えば、学校施設であれば教育する機能とか、あるいは地域のコミュニティ機能とか、交流機能みたいなものが出てくると思うのですが、やはり施設が持っている、あるいは持ってきた、そういった機能を建物ごとに、あるいは公共施設ごとに、きちんと洗い出しておいた上で、機能に関しては、今までの圏域は、例えば周辺500メートルで使われていたとか、そういったような形で、軸となる施設を中心に、どういうふうに複合していくのかという議論になっていくのが自然じゃないかなと、こういうふうには思います。

この点、事務局は、どのような段階から機能面に注目した分析をしようとなさっているのかなという、こういう素朴な疑問が、まずあります。

質問を一つ投げかけさせていただきました。よろしく申し上げます。

【李会長】

事務局、よろしく申し上げます。

【事務局】

稲生委員のおっしゃるとおりでして、最適化の検討を進める上では、施設が持つ機能に着目した機能重視の考え方に基づく取組が必要であり、この考え方は第3期実施方針でもうたっておりますので、当然のことながら、地域における各施設が持つ機能を整理するというのが大事かと思っております。

そのため、地域のワークショップをこれから進めさせていただき、地域の施設が持つ機能のより良い使い方といったような切り口から、施設が持つ機能というものを整理していきたいと考えております。

また、施設の利用者に対する調査というものを今後検討しております、その中では、施設がどのような使われ方をしているのかということと、あわせて先ほどから申し上げました利用者の圏域というものの把握をしていきたいと考えております。何よりも、稲生委員のおっしゃるように、その施設がどのような機能を持っているかというところを、調査で把握していきたいと考えております。

今回、資料上、順番が物理的なステップというところから進めているのではないかと見えてしまう点については、修正が必要と思っております。あくまで、今回は最適化の検討をスタートするための第一歩のステップというような意味合いになっておまして、同時並行で、そういった機能のところについても整理していこうと事務局としては考えております。

以上でございます。

【稲生委員】

ありがとうございました。

恐らく、認識は私の認識と同じだろうなというふうに思いますけれども、ステップ3のその下の箱の部分で、それぞれの施設の利用者の圏域を把握するというときに、ざっくりと、その施設がどこまでの範囲の方、つまり、先ほど申し上げたように徒歩圏で20分とか、あるいは円で書いたときに、500メートル圏内の方が、その施設を使っているということだけで検討してしまうと、ミスリードがあるのではないかとことです。

したがって、例えば当該施設の中に、例えば会議室があったとしたら、会議室に関して圏域はどれぐらいなのか、あるいは、それ以外の例えば運動する部屋とか、趣味の部屋というものがあったら、それぞれの圏域はどうだろう。そういった、規模に応じた圏域というものも把握していかないと、どこに、施設のどこの部分を移していくのかというような議論ができないのかなと考えておりますので、ぜひ機能論と一体化した圏域の把握をお願いできればなと思ひまして、強調させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。単なるこれは意見です。

【村尾委員】

老朽化が進んでいるものを軸施設として、定義するということですね。

【事務局】

はい。

【村尾委員】

その場合、改修しない限りはそのうち使えなくなるという理解だと思いますが、その場合、他施設とか周辺施設に軸施設が持った機能は移転していくという理解でよいです

か。

【事務局】

軸となる施設が、最適化検討の起点となるものというように提示させていただいておるのですが、その要素は老朽化だけではなくて、それ以外の要素も考慮しています。そういった意味では、老朽化以外にも利用状況や規模などを加味した上で抽出しているというフローになっておりまして、実際にこの考え方で軸施設を設定すると、規模は大きささまざまで異なるというところと、当然、先ほど稲生委員からもありましたとおり、機能面のところでの圏域もさまざまというところもあるかと思えます。そういったものを加味した上で軸の施設自体が、実際に建て替えを行って複合化の元となり得るのかとか、もしくは、別の施設で代替ができるというところで多目的化を図るとか、また逆に、軸の施設が多目的化の元となるかということにつきましては、地域ごとの施設の状況を見た上で、判断するような形になるのかなと思っております。

【倉斗委員】

すみません。今の稲生委員と村尾委員の御意見に関連してなんですけれども、私も機能というところに着眼することには大賛成でして、軸施設というのは軸施設の耐用年数の時期をスタートラインとして、そこから議論がこのエリアで始まっていくという考え方だと思うのですが、そのときに、ぜひ機能論に行ってほしいのですけれども、既存の機能の議論だけにとどまらず、今この会議もそうですけれども、オンラインとか、在宅で仕事をするとか、いろんな過ごし方が出てきた中で、公共施設に求められる機能そのものも変わってくる部分は多様にあると思うのです。

そうすると、今エリアで利用者の圏域で一応グルーピングを簡単にしているのですけれども、機能を見直していったときに、距離という物理的なものがなくてもいい機能というのも、多分出てくるのではないかと思うと、そのぐらい未来志向といいますか、これから求められる機能というのを合わせた形で、エリアの施設を見直していくというようなことができると良いのではないかと思います。意見です。

【事務局】

少し捕捉させていただくと、今、倉斗委員がおっしゃっていただいたようなあたりも、第3期方針の策定の際には、やはりちょっと未来を見ながらやっていくというところで、今後多様化する市民ニーズですとか、あるいは環境変化、デジタル社会とか、そういった世の中の動きとか、例えば現在使われていない施設か何かがあって、その理由を詰めていくとか、探っていくという中で、時代に合わない形とか提供の仕方とか、新しい機能を求められているというあたりも探りながら、マネジメントの取組にしていくという観点を引き続き持ちながら進めていきたいと思えます。以上でございます。

【李会長】

今、委員の方々から機能に関する話が出てきたのですが、以前から機能を大事にしよ

うという話があって、それを評価にも反映することがあります。

それを、この委員会の後で、市民の方々にその内容について説明して、また、ワークショップなどでゲームを交えた形でやってみると思うのですが、今、やはり委員の方の話の中で出てきたものを市民に知ってもらうためには、分かりやすくワークショップで実現できるような工夫が必要かなと感じました。

例えば大きな箱が建物で、小さな箱がその建物に入っている幾つかの機能として、これについて、市民の方々が、これをどういうふうに組み合わせたほうが一番いいのかというのを考え、また、すでにある機能の中でどのような機能がこの建物には必要ないとか、そういうことが、市民の意見から出てくると思います。となると、それはすごく重要なワークショップの進め方になるかと思えます。行政側で多くの分析をしていますが、市民、建物の大きさがどうなるかは分からないのだけど、機能重視目線でワークショップを行うことで、「このような機能」を減らして、「あのような機能」をさらにこの地域へ設置するというような、分かりやすい機能重視の配置がやっと実現できて、それが見える形でできるのではないかなと感じました。

ですので、この委員会より、恐らく実際に市民を対象としたワークショップなどが最も大事な部分だと思いますので、その部分に向けて、今、委員の方々の意見を踏まえて、準備していただければいいかなと思います。

山口委員、どうぞ。

【山口委員】

すみません。すごく根本的な話になってしまっていますが、最初の背景のところ、施設を四つほど分けていらっしゃると思うのです。全市型施設とか、各区型施設とか、地域型施設、その他の施設と分けていらっしゃると思うのですが、この中で、機能が多機能にわたっている施設はどれですか。

すなわち、地域型の施設というのは、ほとんど単一用途なんじゃないかなと思うのですね。各区型で区役所、市民館の中には会議室もあれば、何かあるのかもしれないのですが、機能がいろいろ入っている施設というのは、比較的限られるのかなとも思うのですが、それは意外と簡単に分かりやすく、今説明できそうですか。

【李会長】

事務局、いかがですか。

【事務局】

この施設の分類で、全市型ですとか各区型というところだけで、多機能かそれとも単一機能かという形にはなっていないのですが、見方として、全市型施設であれば、施設名を見た限りですと、ホールや会議室、情報処理コーナー、調理室機能があるなど全市型、各区型という施設は規模も大きいですので、一般的には多機能という見方ができるかなと思っております。

地域型施設であれば、こども文化センターや老人いこいの家などの施設がありますが、こども文化センターなどでも、細かく見れば、壁の敷居などはあまり設けられていない

のですが、子供の休憩場所みたいなスペースですとか、部屋の中で運動ができるような場所とか、ピアノが置いてある諸室のような部屋とか、壁で仕切られてはいないものの、使い方が違うような室内になっていたりもしますので、単一の機能で、一つの公共施設があるというものは少ないかなというふうに見ています。

【山口委員】

分かりました。全市型や各区型は比較的多機能であり、地域型は比較的主たる機能がありますと、そういう理解でいいですかね。

【事務局】

そのような見方でおおむね大丈夫かなと思います。

【山口委員】

機能分析をする施設の数について、全てだと分からなくなってしまうので、施設を絞るとすれば、そういう観点から分析をしていけば絞っていけるのかもしれないなという感想を持ちました。

【李会長】

倉斗委員、どうぞ。

【倉斗委員】

今の意見は非常に興味深いなと思って伺っていましたが、改めてこの表を見ると、もう一つの見方として、例えば全市型施設といいますと目的別の施設というように捉えられると思うのですが、地域型施設というのと、部屋名のラインナップを見ると、学校は別として、ほとんど一緒に、対象者の年齢であったり、属性ごとの施設であったりという形で、箱だけを見ると、誰が使っているのかというのは分からないような見方というののできる分け方だなというように思いました。意見です。

【李会長】

ありがとうございます。

【朴委員】

すみません、同じような議論で、繰り返しになってしまうかもしれませんが、私も、最初の説明会に行ったときにお聞きしたのですが、資料1の1ページ目に、せっかく基本的な考え方の取組の中で、機能重視の考え方に基づく取組と書いていらっしゃるという考えで、従来の考え方は非常に分かりやすいです。当たり前ですけれども、目的別、対象別にあって、子供用の施設、高齢者用の施設、誰が聞いても、誰が考えても、なるほどと思うし、現状ある施設を聞いてもそうだと思います。

それを機能重視の考え方に動きましようという捉え方自体は、非常に有効だとは思いますが、事前説明のときも聞きましたけども、具体的に頭に思い浮かびません。高齢

者と子供が機能重視の建物か、施設の中で同じように時間を分けるのか、場所を区別するのか知らないけども、できますよという例が全く頭の中に浮かびません。

市民の目線、私も市民の目線で代表して言っているのかどうかは分からないけども、聞くと、単に二個一にするのだろうなど。それで施設を統合するなり減らして、お金を減らして、いろんなことをきれいにするためにやるのだろうなという印象は受けます。

それが果たして、今までの機能の状態の中で使えるような部分で、ちゃんと機能してくれて、高齢者も、子供も、みんな、万々歳というような形なのかどうかと言われると、具体的なイメージが全然湧いてこない。

だから、せつかく重視という考えを取り入れるのであれば、この部分は、やっぱりもうちょっと具体的に説明してくれるものが、少なくとも市民の人にミスリードをしろとは言いませんが、具体的に1例、2例を挙げてくれると分かりやすいと思うのですよ。

この部分、先ほど別の委員から機能重視と言われても、恐らくイメージが、非常に苦しい。その目的別、対象別だって、最終的には機能なのだろうけど、そこを最初に持ってきました。だから子供はいいです。高齢者はこうですみたいな話をされても、ちょっと議論のかみ合う場所がつかめない。私は少なくともつかめないのです。

だから、どこかのページに、ここを見てください、具体例を幾つか挙げてなるほどと思えるようなものが、提案としてでも1点、2点あってしかるべきというように感じます。

以上です。

【李会長】

ありがとうございます。事務局いかがですか。

【事務局】

今、委員がおっしゃっていただいた意見で、やはり具体的な事例、イメージが特に湧くような使い方ですとか将来像のようなものを、今後、実際に導入施設整備が進んでくれば、写真のような形でもお示しできると思いますし、実際に同じ建物の中であっても、いろんな世代の方が使っているというような説明の中でも、例えば部屋はあるのだけど、時間帯を分けて、今だと、例えば18歳未満の人しか使えないこども文化センターの部屋を時間帯によって大人も使えるとか、高齢者の方も使っているとかですね。

あと、あるいは、まだ実現していないのですが、一例としては、同じスペースを大人も子供も同じ時間帯に使っている。スペースの運用の仕方というのは、ちょっと安全配慮とかで、少しルール化も必要だと思うのですが、同じ部屋を同一の時間帯で使えるだとか、そういうものも検討としてはございますので、同じ建物を多世代で使うというところのあたりについても、今後、イメージ図ですとか、もしくは写真などを用いながら説明、特に市民の方向けには、やはり具体例がちょっと欲しいところですので、機能重視という言い方だけでなく、具体例を示しながら、今後は説明のほうを工夫していきたいというふうに思います。

ありがとうございます。

【李会長】

ありがとうございます。機能重視について、ずっと議論してきた中で、今まさに、市民の朴委員から、非常に重要な市民目線の話が出てきたのですよね。

やっぱり、それはなぜ起きるかという、例えば、この部屋だって会議する空間ですけど、大事なのは、市民から見たときに会議という利用用途として貸出しできるか、できないかということがあると思うのですね。

ですので、老人会館でも、青少年会館でも、図書館でも、会議できる場所は全部あります。名前が違うから、怪しいから、そこは会議室として使っちゃいけないとか、そういうイメージができたりしますね。また、建物の名前をそのまま出したり、部屋の名前を、施設ごとにすごく格好いい名前をつけたりしますよね。本当は会議できる機能がありますけど、結構長い名前をつけたりするで、問題が出てくるのと思います。

だから会議室として、あるいは勉強場所として、自由に予約して使えるものはその機能として表現して、どここの空間があるのだけど、そこは会議でも、勉強でも使えるからいいのだという、そのように認識できるように、表現の仕方を変えることが重要な部分ではないかなと思います。

朴委員、非常に重要な意見をありがとうございます。

では、資料1、2について、委員の方々から多くの重要な意見をいただきましたので、次の段階に進めさせていただいてもいいですか。

それでは、次に、続きまして、②のワークショップ・アンケートによる市民意見聴取について、事務局のほうから、資料3に基づいて説明をお願いします。

『1（2）地域ごとの資産保有の最適化について

② ワorkshop・アンケートによる市民意見聴取について』

（資料3について事務局から説明）

【李会長】

今、事務局のほうから、資料3に基づいて、ワークショップ・アンケートによる市民意見聴取について説明がありました。この部分について、委員の皆さん、御意見がある方は、挙手をお願いします。

伊藤委員、どうぞお願いします。

【伊藤委員】

アンケートの技術的な点について、お伺いしたいんですけども、地域ごとに、施設の利用状況を聞くということですが、各地域1、500人ということで、例えば何か人口の偏りとか、そういうものというのは考慮されているのかどうか、されていないのかどうかというのが一つです。

あと、私もやはり公共施設を利用しない方々の御意見というのが重要だというふうに申し上げてきたのですが、アンケートはワークショップのときに案内と一緒に送付するというんですけど、これは郵送ということですか。

これは、恐らく世代によっても、郵送されたものに対する回答をするかしないかとか、あるいは施設を利用しない人というのは、そもそも市政に関心がないので、回答もしないという可能性もあって、聞き方といいますか、アンケートの取り方というのも、何かもう少し工夫の余地があるのかなというふうに、伺っていて思いました。

私が理解していない部分もあるかもしれませんが、よろしく願いいたします。

【李会長】

ありがとうございます。事務局、いかがですか。

【事務局】

3点ほどあるかなと思ひまして、一つが人口の偏りなんですけれども、こちらは、それぞれの地域ごとに無作為抽出をいたしまして、地域によっては若干、例えば高齢の方が多いですとか、逆に地域によっては若い方が多いですとか、地域特性は若干ございます。

ただ、極端に例えば高齢の方が1,500人のうちの半分ぐらいになるかというところと、そうではなくて、若干高齢の方は多いというところでありまして、おおむねバランスの取れた、地域の世帯の状況を踏まえた抽出になっている。それは、あまり年代にそれほど大きな偏りはないような抽出になっているかなというところでございます。

もう一点、アンケートでございますけれども、郵送というところで、最初はアンケートについて郵送という形で、返信については、紙ベースでも可能ですし、あとネット上で二次元コードを読み込んで、若い方ですと、二次元コードを読み込んで回答される方が結構いらっしゃると思いますので、二次元コードでの回答も可ということで、両方を可能な形にして、極力回答しやすい形で御回答いただくというところで考えております。

最後は、聞き方というところでございまして、先ほど伊藤委員のほうからも、あまり興味のない方は、そもそも回答されないのではないかと御意見もいただきまして、アンケートの前段に、何でこのアンケートをやるのかといったところを、もう少ししっかりと丁寧に書いたほうがいいかなと思っております、それはもちろん傾向を確認していくというところはあるのですけれども、ひいては回答が、ある意味、川崎市の公共施設の今後を考えるためのヒントになるというか、いただいた回答をしっかりと生かしていきたいといったところを、もう少し丁寧に御説明をしながら御理解いただくというところと、あとは利用していない、機能の項目が少ない、求めるものというところが、先ほど倉斗委員のほうからもありましたけれども、ちょっと未来志向で、ある意味、例えばテレワークですとか、今あまりないような機能というのも選択肢を増やすことで、この機能だったら使ってもいいかなというのを少し回答していけるような形にしていければいいかなというように思っております。

以上です。

【李会長】

倉斗委員、お願いします。

【倉斗委員】

1点質問と、あと意見なのですが、質問は、今後、川崎市の公共施設の利用料を取るような集会施設も含めてですけど、イメージというか、推定というか、どのぐらいあるのでしょうか。

今は、無料のものが多いのか。

【事務局】

条例上、例えば市民館ですと有料あったりですとか、子ども文化センターは無料であったり、その無料の施設からお金を取るかどうか、そういったお話でしょうか。

【倉斗委員】

公共施設のアンケートなのですが、利用者としては、公共施設だから使うとか、使わないという判断の基準は、安いとか、無料だからだとか。ただ、例えば集まって何かサークルで集まりをしたいといったときに、同じような値段だったら、誰かの家のマンションの集会室でもいいわけで、何かその辺の民間施設と公共施設の違いというのが、どこにあるのかということ結構重要だなと思っています。

特に川崎市においては、かなり民間の施設も充実している状態で、その公共施設が予約で埋まっていたら、じゃあ、うちのマンションを使っていいよみたいな、何かそういうことができちゃう立地条件の地域は、すごく多いと思います。私自身も、そういうように暮らしているのも多いと思うのですが、何かその中で今のアンケートのスタイルだと、やっぱり公共施設については聞けるのですけれども、利用実態としては聞けないのではないかなと思っています。

なので、例えば、こういうときはどこを使っていますかとか、行動側というか、目的側から聞くような聞き方というのがあってもいいのではないのでしょうか。

それと、属性等に関しては、今、年代とか、あと、5ページのところにある基礎情報のところで、年代、世代、職業、居住年数、賃貸・持家というふうな分け方があるので、そこにお子さんがいる、いないとか、お子さんが何歳だとか、あと賃貸・持家というよりは、マンション・戸建てみたいなことでも、エリアでは全然公共施設との関係性が違ってくるのではないかなと思うので、ちょっとその辺の実態を浮き彫りにできるような聞き方というのを考えられたほうが良いのではないかなと思っています。

多分、求めるものという下のほうにある(3)のようなところが、今、申し上げた行動の目的からというようにところかなというように思うのですけれども、先ほどの説明であった、「何で使わないのですか」という質問は、結構聞かれると困ると思います。何か用がないからだなというだけで終わってしまう気がしていて、何かもうちょっと使っていない理由が、そういえば、そういうときはここを使っているからだというような答えになる方が良いかなというのがありました。

あと、もう一点。

周知の仕方、アンケートの取り方ですが、郵送を行うのかという話がありまして、確かに郵送だとほとんど見ない。働いていて忙しい方だとかは、行政からのアンケートで任意で回答して良いのであれば、見ないというような人が圧倒的に多いのではないかと

思うのですが、例えば学校を通じて、親御さんに配られるプリントとかになると、もう少し見る率が上がるのではないのでしょうか。

また、川崎市で昔パブコメを募集していたときに、私が、自分が通勤で通っている最寄り駅に、パブコメを募集していますというポスターが貼ってあって、QRコードが貼ってあったのですね。

それを読むと、今の白書だったか、何だったか、その計画がPDFで読めてというようなことを何年か前にやられていて、すばらしいなと思いました。家で封筒を開いて、資料を見て、それに対してアンケートを書くとか、パブコメを書こうというモチベーションにはなかなかならないと思うのですが、通勤電車の中で、今どんなことになっているのかなという興味本位で見る人は、もう少しそれよりは率としては上がるのではないかと思います。

なので、今紙ベースだけではないとなったときに、どのようにしたら少しでも見てもらえる、興味を持ってくれる人が増えるかという発信の仕方というのはすごく重要だと思うので、ちょっとその辺も検討いただけるといいと思います。

【李会長】

村尾委員、どうぞ。

【村尾委員】

ほとんど利用していない、また利用していない理由のアンケートのところですが、これは利用していない人に聞くのが一番正確だと思うのですが、この施設の管理者とかも結構ニーズの偏りとか、何で使われていないとか、よく分かっているかなと思うので、そういう管理者などからも意見を聞きつつ、ワークショップでもその意見を共有するとかはどうなのかなと思ったというのが1点と、あと、資料3の1で、どうすれば施設をより良く使えるかというのがワークショップの大きな議題だと思うのですが、これは機能と配置の関係で議論するのか、もっとサービス面とか、営業ではないと思うのですが、営業努力みたいなので、どうやったら使う人が増えますかみたいな話まで踏み込むのかというのはどちらですか。

【事務局】

ありがとうございます。

まず、管理者にニーズを聞いた方がいいのではないというところですが、こちらの資料の3ページにございますけれども、施設分析の中で、一応所管課にはヒアリングをというところであるのですが、当然所管課が施設管理者でありますし、あと、指定管理者であれば指定管理者ですとか、そうした方面からのニーズの確認というのも必要かなと思っておりまして、そちらはさせていただいた上で、ワークショップで共有をしていきたいなと考えております。

最後の配置と機能、サービス面の話があるのですが、この両方からというように思っておりまして、配置と機能ですと、先ほどの資料、議題1でもありましたけれども、エリアで配置を考えて、距離で考えて、あとは圏域を考えながら、施設配置でどう機能

をはめていくのがいいかというのも考えるというのも一つありますし、あとは、機能で、例えば何か機能面に課題があるというところであれば、その機能面から議論をしていって、ワークショップの場合は、何かすぐに解決できるということではないかもしれないのですが、例えばこういう機能に課題があるのだということであるならば、それは、やはり本市としても課題であることだと思いますし、じゃあ、その課題というのをどうやって解決していくのかというのは、また別途調整しながら、対応していく必要があるなというところで、両面でやはり考えていく必要があるというように思っております。

以上でございます。

【倉斗委員】

今の御質問のお答えとしての中で、利用者を増やすにはどうしたらいいかと考えたいのか、利用の実態とか、今後の予測を立てて、もう要らないものを減らしていく方向に行くのかというのはどちらですか。

【事務局】

利用者を増やしたい。多分そこにはニーズがあって、例えばニーズがあるのだけど、使えていない人が施設を使えるように、例えば、時間帯だとか、施設そのものが持っている機能だとか、何か制約があって使いたいと思っている人が使えない。それを、施設を使えるようにして、結果的にそれで利用者が増えるということにはしていきたい、そういう方向にはしていきたいなと思っておりますが、例えば利用者に無理にでも何か宣伝して増やしていくという、何の目的もないのに増やしていくというのはちょっと違うかなというふうに思っています、施設を使いたいんだけど、使えていない人はどう使えるようになるかという視点での利用者増というのはあるかなと思っております。

【倉斗委員】

先ほど申し上げたのは、施設でも良いのですが、民間施設でも良いみたいな機能のときに、民間施設がうちはより近くにあるからとか、より快適だからそっちを使っていますというエリアがあったとしたら、その人達にわざわざ公共施設を使ってくださいと言うのでしょうか。それは、じゃあ、そこを使ってください、ここをなくしてもいいですかという話になるのかは、どっちを目指したいのかなと。

【事務局】

その機能の役割分担にもよってくるかなと思います。一概に、例えば、じゃあ、これは民間で、これは公共でというところはなかなか難しいかなとは思いますが、例えば機能によって、それは公共が担う役割のものであるならば、それは公共が担うべきですし、いや、別にそれは民間施設で担うべきものであれば、それは民間で担ったほうがいいという話になるかなと。

【倉斗委員】

時期というよりは、実態。

【山本係長】

実態です。新しい機能はどうかという、例えば今後の未来志向の機能をどうするかというところは、また少し議論があると思いますけれども、その機能の役割分担でどうするかというのは考えていけないのかなと。

【李会長】

今、倉斗委員からすごく大変重要な部分をおっしゃってくださったのではないかと思いますのですが、施設の所有者が民間か、公共かは、市民からするとどちらでも良いことで、利便性が高くて使いやすければよいわけですね。今、川崎市の公共施設をさらによくしますよというような方向でアンケートとワークショップをやろうとしています。そのときに具体的な目標を持って、その目標が実現できるようなアンケートとワークショップになるように準備することがよいのではないかと思います。

だから、今やろうとしている川崎市の公共施設再編の推進では、他のところで羨ましいと思えるように、10代、20代などの若者が公共施設を気軽に楽しく使える、明るい将来像を、目標として設定すると思います。そのようにするためには、やっぱり今の10代の子たちが公共施設をほとんど使わないから、その子たちがこれからは気軽に何も考えずに放課後に近くの公共施設に行って、遊んで、あるいは吹奏楽の練習をして、あるいは部活の活動ができるようにする。可能であれば、公共施設の近所の学校と川崎市が連携しても全然良いと思います。

今のようなアンケートでは、多分10代の子たちの意見は収集できないと思うのですよ。

だから、倉斗委員から、先ほど学校にアンケートを配って、親に渡すということもあり得ますけど、役所の方々が学校に直接行き、学生たちに説明した上、回答してもらう。例えば今部活で何が困っているのかとか、近くの公共施設で練習ができるようにするとか、そのようなことが収集できれば、そちらの方が次の公共施設再編に活用しやすいと思います。

なので、このアンケートでは、無作為で全世代の意見を聴取することもすごく重要ですが、このままだと、10代の意見は聴取できないことから、いかに10代の生徒たちの意見を集中的に収集できるか。そこを狙って計画を立てることが望ましいのではないかと思います。

そうでなければ、一応アンケート調査をしたのだけど、いつもどこかの市民アンケートでありそうな意見で、これを具体的にどのような形で反映するかというところで、机上の空論のような形になってしまうかもしれません。

この10代の生徒たちをターゲットにアンケートを取るというのは、これはワークショップについても、あの子たちが興味を持ち、そこに参加できるようつなぎの役割も出来るのではないかと思います。

ですので、何をしたいのかということ具体的にして、明るい将来像をつくって、それを達成できるようなターゲット層を決めて、そこを別にアンケートを取っても全然構わないと思います。恐らくスマートフォンでアンケートを取ったほうが集計もしやすい

ということです。

どうぞ、朴委員。

【朴委員】

今の意見に少しだけ付け加えたいのですが、せっかく10代の子供を狙うのであれば、子育て世代のターゲットもやってください。

私は孫がちょうど生まれて、東京に住んでいます。よく遊びに来ます。よく遊びに来るけれど、残念ながら、川崎には、2歳児が遊ぶ場所がほとんどない。全くないと言ってもいいです。もちろんあるのだけど、使いづらいし、非常に行きづらい。どこに行くかといったら、それこそどこか、イオンとか、子供が遊べるようなところが駅前とかに少しあるけどね。

子育て世代をターゲットとしてあるのであれば、そのためのセンターというか、川崎市が子育てにすごくいいところなのだなという印象を与えるような、目的に沿った手段があってしかるべきだろうと。

このセンターの考え方が手段であるならば、目的に挙げて大丈夫だと思うのですね。それをうたっても十分、特に今の状況であれば、すごく一般受けするとは、そういうことを狙っているのかと言われてしまうと困るかもしれないけど、でも、確実に川崎市は、世の水準から見ると、そこは相当遅れていると思います、私には。

私自身もそういう生活にタッチしていなかったから、何十年も。全然気にもしなかったけど、実際に孫が来て、いざとなってしまうと、正直、これはひどいと思うぐらい全くないですね。

公園の施設もひどいけれども、子供、そういう小さい子が遊べるような施設はありますよ。あるんだけど、本当に使いづらい上に、もう古い。なおかつぼろい。三重苦の状態、さあ、孫に遊べと言ったところで、さあととなりますね。

【倉斗委員】

恐らくそういう方々は、例えば休みの日、土日にラゾーナだったり、小杉のグランツリーだったりみたいなのところにいっぱいいるのですよ。あの屋上なんて。あふれかえって。

そういうところでアンケートをやっていると、市がアンケートをやっていて、これからの公共施設を考えてくださいと言ったら、どうせ遊んでいる間に待っているお母さんたちはいっぱいいるので、もうここぞとばかりに多分答えるだろうし、本当におっしゃったとおりで、言いたい人たちというのに届かないのですよね、こういうアンケートというのは。

だけど、出向いて行って、その人たちがいるところに行ったら、言いたいことはいっぱいある人たちだと思うので、そういう意見もありますし、もちろん、例えば高校生なんかですと、川崎市は市立高校もいっぱいあって、高校では今カリキュラムの中で、公共という単元がちゃんとあるわけなので、そういった単元の中に例えば組み込んでもらって、アンケートを答えてもらうとか、取ってもらうとかすれば、かなり目の覚めるような意見をすごく中高生はおっしゃられるので、何かそういう意見がやはり balan

スとしてないと、こういう従来型の紙ベースのアンケートに答えがちな方というか、いつもの世代みたいな、ボリュームゾーンの人たちの意見だけで市民の意見ですと言っていく時代になっていると、やはり若い子たちとか、これから子育てをして、その子たちを大きくしていくというお母さんたちにとっては、関係ない話をやっているなど、どんどん距離ができてしまうので、ちょっとその辺が、聞き方から姿勢が変わったと思わせてもらえるといいとは思いますが。

【村尾委員】

今の流れですごく逆行して申し訳ないのですが、私はどっちかというところ、10代のときに結構公共施設、体育館とかに放課後に遊びにいらっていて、毎日卓球とかバスケットかをしに行っていたので、どっちかというところ、10代はそういう市民館とか、児童館とかを使っているかなという印象で、逆に、大学とかに入ってから、社会人になっていくにつれて、あまりそういうのを使わない。

だから、20代、30代、40代とか、その辺がやはりへこんでいるのかなと思っていたので、ちょっとあまりいい意見じゃないですけど。

どちらかというところ、10代とかはあまり使っていないというイメージよりは、大人になっていくにつれて使えなくなっていくというふうな、自分はちょっと感じたので、どっちかというところ、このアンケートというところ、30とか40のほうが厳しいのかなというふうな自分は思っています。

【李会長】

今の委員の方々の意見を聞くと、やはり無作為抽出のやり方は、一見公平そうに見えて、本当はまともな意見収集ができない。一部の層だけの意見だけが出てくる。そういう可能性があるということが、委員の方々のお話を聞くと、そうなるのではないかなと思うのですね。

ですので、やはりあらゆる考え方を持っている層があるので、それぞれの層にアンケート、あるいはアンケートからワークショップにつながるようなことを、役所の方がちょっと苦労するかもしれないけど、それぞれの利害関係が違う、考え方が違うグループ、例えば、子育ての世代が集まっている会、学校、お年寄りの方々が集まっている自治会、そのような団体に直接足を運んで、配って、ここにどうぞと説明すると、本当に生きた意見、バランスが取れた意見、幅広い考えが違う層の意見を聴取できる公平なやり方ではないかなと、そのような気がしました。

ですので、その部分に関して、市の方から少し工夫していただいた方が良いかなと思います。

では、次に進みたいと思います。

『1（3）公共施設白書の分析について』

（資料4、5について事務局から説明）

【李会長】

ありがとうございます。

それでは、今の施設白書分析の内容について、意見のある委員の方、挙手をお願いします。

稲生委員、どうぞ。

【稲生委員】

ありがとうございました。事前の説明でも申し上げたのですが、単に数字の上昇、下がったという文章だけが書かれているようでは、正直に言って、要するに何が減ったのか、どういった要因で減ったのか、増えたのかということの分析がないと、正直に言って、あまり意味が無いかなということを最初に申し上げたいと思います。

例えば資料4の1のところでは申し上げると、公共建築物、施設分類別延床面積の過年度比較という図があるんですね。そうすると、例えばあまり大きな変化は見えないということにはなりますが、学校施設は学校施設ということで、新しい学校ができたのかなというデータのことでは結構なのかもしれませんが、例えば市営住宅施設が減少傾向にある。ちょうどこのオレンジの部分だと思うのですが、それが一体どういう要因で減ったのか。

要するにこれは老朽化によって、建物が取り壊されたという事情なのか、あるいは川崎市の方針として減少させているのかどうかなど、そういった増減の要因も文章を私は入れたほうが良いのではないかと思います。

同じことは次のページ、2ページの保有施設数の増減ですね。これもどういった事情で増えたのか、減ったのか。例えば2ページで言うと、ブルーのところ、何か所かあるのですが、一番幅が広いところでは、福祉施設というのがございます。319、330、328施設と、こうなっているのですが、これが一体どういう事情でこういう増減になっていったのか。

例えば減少というところは統廃合があったとか、なかったとか、いろんな事情があったのかと思いますので、こういったようなことを丁寧に、市民の皆様に分かるように文章化したほうが良いのではないかなと思いました。

それから、一番大切なところが、今回の公共施設マネジメントは、最終的には8ページ以降の4、コスト状況に反映されてくると思うんですね。そう考えていくと、増減の関係と、総コストの関係、これもやはりどこかに推移とともに記載いただくというのではないかなと思います。

特に民間の資料、財務諸表などを見るとときに大事なものは減価償却になるわけですが、老朽化が進んでいる川崎市において、減価償却がどういう形で動いているのか、その要因は何なのかといったようなことも、きちんと内容を明示しておく必要があるのではないかなと。

また、減価償却累計額ですね。これも結局老朽化の度合いを示すとともに、本来であれば、その分の貯金が民間であれば減価償却の累積というのはまさに資金として川崎市が持っているかどうかを示すことになるわけです。

しかしながら、民間のバランスシートと川崎市のバランスシートが必ずしも現段階で

は一致していない可能性もあるわけですから、その点もやはり分析する上で、私は重要なのではないかなと思います。

ということで、今回お示しいただいたのが、まだこれがドラフトの段階だという理解していますが、やはりここら辺はきちんと川崎市なりに、どういった事情で、いろんなデータが増えたのか、減ったのか。また、それが財務諸表にどう反映しているのか。そういったようなところまで踏み込む形で分析をし、それを示したほうが、今後、もし仮に市民の方に見ていただいて、シンポジウムで御利用いただけるのであれば、今私が申し上げたところまで、ぜひ分析いただいた方が良いのかなというふうに思いました。

長くなりましたが、以上でございます。これは意見です。

【李会長】

ありがとうございます。

ほかの委員はいかがですか。

【朴委員】

すみません。ちょっと質問なんですけど、一番最後のページの一番最後の項目、表というか、このグラフの市民活動施設とは何ですか。

【事務局】

こちらは市民館です。川崎市でいうと、例えば教育文化会館ですとか。

【朴委員】

それは、では、教育施設というのは社会教育施設とかはあるけど、そういう項目に入らないのですか。

【事務局】

そうです。社会教育施設というのがまた別の分類でございます。

【朴委員】

上の名前のところにあると、大体何となく何だかが分かるのですが、これが小さかったら、その他のものをまとめて入れたのだと思うのですが、こんなばかでかい人の数が動いているところに、市民活動施設とかと書いてあるけど何だか分からない。

【事務局】

中分類だけだと、具体的にどういった施設なのかというのはなかなか想像しづらいというのは課題だと思います。

【朴委員】

うん。それはこの上のほうにある複合施設とか文化施設とか、青少年施設に入らないものだという事ですか。

【事務局】

そうです。基本的にはこの分類は1施設当たりどこかの中分類に該当するので、それが複数の分類に重複して載っているということはないようなグラフになっています。

【朴委員】

できれば具体的なものを挙げていただけると、少しイメージが湧きやすいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

【李会長】

朴委員、大丈夫ですか。

【朴委員】

はい。

【李会長】

ほかの委員、いかがですか。

施設白書分析についてなんですが、基本的には、この施設白書の重要な部分について、もう一度確認したいと思います。

施設白書というのは、毎年同じデータが変わった状況を分析することですから、一番大事な部分は、毎年データを定期的に更新すること。あと、それぞれデータにあらゆる形のグラフを作れますが、それはつねに変わる可能性があるんですね。見せ方を変えれば、グラフは幾らでも変わるものですから、それは変わっても全然構わないと思います。

それより大事な部分である、白書を毎年更新する目的は、あるグラフについて、そのベースとなる基礎データを幾らでも提供できるような状態にすることだと思います。

そのような基礎データをしっかり持っていることで、自治体でもたくさんの分析がいつでもできるし、考え方が変わったら、それに対していつでも対応できます。

ですので、この見せ方はできるだけ、例えば市民の方々には難しいグラフより、先ほど稲生委員もおっしゃったのですが、実際にグラフを全部羅列するより概要版で、本当にこの全体の中で重要なポイントだということだけ、分かりやすい形で加工して出すのが良いかと思います。それについて具体的に背景になる元のデータは全部ありますので、必要な方はいつでも言ってくださいと、そのような形のほうが施設白書の一番いい形と言えます。バックデータを定期的に更新しているから、いつでも市民の皆さんは、詳しく知りたければ、問合せをしてくださいと、そのようなことが望ましいかなと感じております。

ほかの委員の方、いかがですか。

特に意見がなければ、次のほうに進めさせていただきたいと思います。

次は、報告になりますね。議題の報告ということで、本委員会の部会として、これまで検討を進めてきた、「公共ホールの在り方」について、取りまとめを行っております。

今日は時間が少ないために、事務局のほうから一言報告していただいて、御意見などがありましたら、後日事務局へ連絡、あるいはメールなどをいただければと思います。それでは、事務局のほうから、資料6について説明をお願いします。

『2 第2回ホールのあり方専門部会の報告』

(資料6について事務局から説明)

【李会長】

以上の報告で、本日子定していた議題及び報告は全て終わりますが、全体を通して、何か御意見などがありましたら、どうぞ挙手をお願いします。

稲生委員、どうぞ。

【稲生委員】

資料の3番目のワークショップの話で、ちょっと1点確認したいのですが、資料の3ページのところで、皆さんからの議論が特になかったのですけれども、ワークショップ等を通じた意見交換ということで、令和5年、6年のロードマップが書かれていたかと思えます。

それで、少し気になっているのが、ワークショップはとても大事なことだと思っております。この図を拝見していると、令和5年の第2回では、公共施設に関するアンケートの分析結果、これに関しては、皆様から多様な意見が出まして、私も賛同したところでございますけれども、このアンケート分析結果を踏まえて議論いただくということ。これは大いに結構かと思っております。

さて、令和6年度になりますと、このチャートで言うと地域最適化検討というのがオレンジの部分がございます。これが最終的に令和6年度の段階で最終案として出来上がってくる。これが令和7年度によいよパブコメに係ってくると、こうなるのですが、1点気になるのが、ワークショップとの関係ですね。

ワークショップでは、令和6年度のところを拝見しますと、令和5年度を踏まえて状況を確認した上で、上のブルーの箱の二つ目の丸を拝見すると、エリアごとの施設のよりよい使い方の検討ということで、先ほどの議論を踏まえてみると、事務局の意見では、決してこれは施設単体で見るとはならないということにはなりますから、ある程度は今日議論をさせていただいた機能なんかを踏まえて、施設ごとを横並びに見て、どういうふうな使い分けをしていくのかというのをエリアごとに、つまり地域は19地域、川崎市を分けるわけですが、それぞれの地域の中でエリアに、幾つかに分かれていく。エリアごとに、機能ごとにどういうふうに配置するのがいいのかなと、そこまで恐らくこのワークショップで議論するのかなと。それが施設の適正配置検討に反映されていくのかなと。

つまり施設の適正配置の検討というのは、あくまで行政だけで行って、それを令和7

年度にパブコメにかけるわけではないのだろうと、こういう理解でいるのですが、事務局、こういう理解でよろしいでしょうか。

私が言いたいのは、端的に言うと、要は地域ごとの最適化方針（案）というのに関しては、ワークショップで一切議論はなされないのかどうかということを懸念しているがために、こういった質問をさせていただきました。よろしくお願いたします。

【事務局】

稲生委員、ありがとうございます。

結論から言うと、行政だけで考えるという話ではありません。

この図にもございますとおり、ワークショップ・オープンハウスの意見活用というのがありまして、よりよい使い方検討というのが上のほうにもあるのですが、先ほどからお話しいただいていますとおり、その機能の分析ですとかということ、あとは、利用状況の確認ですとか、機能の分析ですとか、そういったことをしていきながら、当然私どもで施設の適正配置検討というのは行っていくのですが、それは当然ワークショップでも今こういった検討をしていますというのをお示ししながら、またそこで、例えばエリアごとにこういう検討があって、このエリアだとかこういう使い方が考えられますよね、では、この中でどうやってもっとよりよく使っていきますかというような御意見をいただいて、それをまた適正配置検討に活用させていただく。

それを繰り返して、最終的に最適化方針というのができていくので、当然行政側の検討だけでもないですし、ワークショップだけでもないというところで、最終的には全て合わせてという形で方針をつくっていきたいというふうに考えております。

以上です。

【稲生委員】

そうしますと、令和6年度、3回から4回程度のワークショップが行われるということは大いに結構ですが、最終回のときには、コンセンサスをワークショップで取るところまでやるのでしょうかね。そこがちょっと気になっているのですが、そういうわけではないのですか。

私のコンセンサスは、施設の適正配置の案に関して、行政が決めて、これをワークショップで議論してもらって、一応それなりのコンセンサスを得た上で、地域ごとの最適化方針（案）という形で令和7年度に決まって、パブコメにかけていくという、こういう段取りになるのですか。

【事務局】

そのような段取りで今考えています。

【稲生委員】

分かりました。ありがとうございます。

【李会長】

ありがとうございます。

そのほかに全体を通して、先ほど時間の関係上、発言できなかった内容がありましたら、お願いします。

【山口委員】

白書の分析についてですが、分類というのはなかなか変えるのは難しいですね。

結局、先ほど各施設型とか、地域型とか、いろいろ分けたりとかをしていますけど、その分け方がかなり細かくて、先ほど他の委員の方もおっしゃっていましたが、「その他の社会福祉施設」や、いろいろ「その他の福祉施設」とか、福祉施設が複数にわたって分かれていたりとか、これにおいては、これは施設白書をつくる上では、なかなか変えるのは難しいという感じですかね。

そうすると、なかなか効果的な見せ方というのがグラフでは難しいのかなというのがちょっと私の意見でした。稲生先生がおっしゃったように、やっぱりこれを総括した形で取り出して、一部適正化に必要な施設だけ取り出してグラフ化するか、もしくは言葉で説明してあげるかしか対応ができないのかなというふうに、分類の関係上で難しいなというように感じました。

以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

これについて事務局から何かありますか。

【事務局】

分類を変えるというのは、過去3年分同じ分類で白書のデータを出してきているところもございますので、すぐに変えるというのは難しいかなと思います。

【山口委員】

そうすると、やはり先ほど稲生先生がおっしゃったように、解説については、地域の最適化とか、ワークショップとかで検討して欲しいようなことについて分かりやすく説明していくというのが一番分かりやすいかなと思いました。

以上です。

【事務局】

ありがとうございます。

【李会長】

ありがとうございます。

【伊藤委員】

手短かに1点だけ。最初の資料1、資料2の御説明で、進め方についてお話しください。

たのですが、地域におけるそれぞれの最適化を進めていった結果、全市的に最適化が進むのかどうかという問題がありまして、機能ごとにいろいろと個別の検討を進めていくというのは非常に重要だと思いますし、実際にそうせざるを得ない、そうするのが望ましいと思うのですが、やはり地域ごとに、ある程度横並びで、どういう基本的な考え方で行くのかというところがぶれてしまうと、個別の話だけに終始するということになりかねないので、全体のマネジメントはきちっと全体のプロセスをきちんと管理していただきたいというのが、私からの意見です。

【李会長】

ありがとうございます。

事務局のほうから、今の伊藤委員の話について、最初から伊藤委員はおっしゃってきたところがあると思いますけど、その部分について、全体を通してマネジメントしていく形で検討していただくべきかと思います。

それでは、これをもって本日の委員会を終了しまして、最後に事務局のほうに進行をお返ししたいと思います。よろしくをお願いします。

【事務局】

長時間にわたりまして、御審議いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第1回川崎市公共施設マネジメント推進委員会を終了いたします。

なお、次回の第2回委員会につきましては、来年1月頃に開催させていただく予定でございます。また、第2回委員会の開催に向けまして、適宜オンラインなどで事前に御説明する機会を頂戴したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。

— 了 —